

会議の名称	第 5 回小金井市公共施設在り方検討委員会（視察）
事務局	企画財政部企画政策課
視察日時	令和 7 年 7 月 1 6 日（水） 9 時 5 8 分から 1 2 時 0 2 分まで
視察場所	埼玉県志木市立志木小学校・いろは遊学館・いろは遊学図書館
出席者	委員長 市古 太郎 副委員長 讃岐 亮 委員 土山 希美枝 村井 芳久 中谷 行男 小西 由華 鈴木 浩司 谷越 瑞希
欠席者	委員 増田 亮 梅根 拓也
事務局	庁舎建設等担当部長 高橋 啓之 公共施設マネジメント推進担当課長 郷古 陸 企画政策課企画政策係主任 山下 真優

■視察概要

1 竣工までの経過

約150年の歴史がある志木小学校は、昭和29年に鉄筋コンクリート造の校舎として改築され、児童数の増加に伴い増築を繰り返してきた。しかし、建物自体の老朽化及び耐震化の必要性という課題に直面し、同様の課題を抱えた近接施設である公民館及び図書館と共に複合化する案が浮上した。

また、当時の教育長の考えとして「これからの学校教育は、地域の協力のもとに」、学校の中に地域社会を持っていくという明確なビジョンのもと、教育委員会と学校が一体となって取り組む体制が確立されていた。

さらには、複合化によって、土地の有効活用をすることでランニングコストを抑えることができると共に、複合施設による真の地域融合を目指し、日常的に学校と地域とで接点を持つことができるというメリットも期待されていた。

こうして、平成9年に関係課によるプロジェクトチームが編成され行政面からの問題点の研究・検討を行い、平成11年には「志木小学校・公民館・図書館複合施設検討委員会」が発足し、公募を含めた市民、関係者の意見集約、事例研究、視察、基本構想策定及び施設計画検討を経て、平成15年に小学校、公民館、図書館が融合した、現在の学社融合施設の竣工に至った。

<旧施設情報>

旧志木小学校 昭和29年築（一部増築：昭和40年 南校舎：昭和52年築）

旧志木公民館 昭和40年築

旧志木図書館 昭和42年築

<現施設建築経過>

平成 9年 関係課によるプロジェクトチームの編成

行政面からの問題点の研究・検討

平成11年 市民検討委員会発足 公募を含めた市民、関係者の意見集約

事例研究／視察／基本構想策定／施設計画検討

平成13年5月 着工

平成15年3月 竣工

2 期待できる教育的効果

学社融合施設とすることで、学校の中に地域社会ができ、地域ぐるみの教育を行うことができる。開かれた学校であるが故にみられる光景として、例えば、児童が授業をしている隣で大人がサークル活動を行っていることもあれば、児童が一般利用者と同じ時間帯に公共図書館を利用することも可能となっている。

このように、教職員・友達以外に、施設利用者、施設職員、施設管理事業者など、多くの大人と接する機会があることで、社会性の醸成が促進され、周囲の大人を信用する土壌が出来る。

3 防犯及び安全対策

複合施設においては従来の単独施設としての学校と比較し、人の出入りが多くなる。そこで、「子どもたちを地域で守り育てる」意識の高揚を期待し、施設利用者の大人たちは児童を見守る“目”としての役割を担い、教職員の目が届かない死角までカバーしている。

また、あいさつを交わすことの重要性を大人と児童、互いに認識しコミュニケーションをとることができ、健全な防犯対策となっている。

このように、地域コミュニティが学校を、学校が地域コミュニティを創ることで当該施設を守っている。

なお、当該施設着工の平成13年5月の1か月後に「大阪教育大学教育学部附属池田小学校事件」が発生したことにより、「不特定多数の人が学校に入れる」複合施設に対して、建設反対の動きが高まったが、丁寧な説明を行うとともに、以下のよう
に防犯・安全対策を措置することで、現在まで大きな事件は発生していないとのことである。

- ・防犯カメラの設置
- ・職員、教職員はPHSと警笛の常時携帯
- ・警備員の常駐（学校の授業時間帯）
- ・三者合同の避難訓練の実施（想定内容：地震、火災、不審者侵入 年に各一回）
- ・教室のオープンシステム化
- ・遊学館利用者、図書館利用者は入館証を着用義務（学校の授業時間帯）
- ・機械警備システムの稼働

4 ハード面における地域の特性を生かした教育効果

普通教室のオープンシステム化により、多様な学習形態、集団形態をとることができるため、多彩な教育活動の実践が可能。また、授業風景が常に公開されていることもあり、教職員がより良い授業にしようと切磋琢磨するきっかけとなることで、授業内容がより良いものに改善されていくことが期待される。

元志木小学校長インタビュー記事より

「従来教室は、閉じられた先生だけの世界だった。教師は客観的な評価にさらされることがなかったのです。でも、新校舎では、外からも授業の様子がすべて見えますから、常に切磋琢磨せざるを得ないのです。」

なお、施設を複合化したことにより、互いの施設が持つ機能を学校、市民が相互利用、共同利用することが可能となっている。学校が使用していない時間帯に特別教室を一般市民が利用すること、同様に遊学館の休館日には児童が遊学館の部屋を利用して教育活動を行うことができ、学校施設の開放の可能性を広げた施設となっている。現在では、複合施設で過ごした卒業生が地域に大勢いるため、今後の施設運営にとってよき理解者となっている。その他にも、公共図書館の使い方を司書が教えてくれることも児童への教育効果の一つである。

5 その他の課題

(1) 普通教室が不足している

現在の児童数 926人 教職員約70人

学童保育室、更衣室、フリースペースを普通教室化することで凌いでいる。児童数のピークは令和7年度かと思われる。

(2) 教職員数が多いため互いに顔と名前が一致しない

不審者か否か、とっさの判断ができない可能性がある。

(3) 教職員の図書館利用機会が少ない

絶好の環境にあるものの活かしきれていないとのこと。

(4) 屋上ビオトープの管理運営が困難

ビオトープを管理するための必要な人材が不足している。

6 質問事項

- (1) 学校と地域施設の複合化によって、児童や保護者、また住民、利用者の様子から「複合化のメリット」と感じられる使われ方や「声」について教えてください。
⇒ 学校の特別教室については、放課後や長期休暇に一般利用が可能であり、また公民館のホールを児童が利用することもできる。そのため、独立して学校、図書館、公民館がそれぞれ建っていた当時の延床面積より、現在の複合施設の延床面積は小さいものの、市民利用できる時間は増加している。
⇒ 図書館については子どもがあまり来館しないことが課題であるが、本施設は複合化により身近で来館しやすいという声が児童からあがっている。また、児童書の数は学校図書約10倍であるため、蔵書数が多いことも魅力である。

- (2) 維持費や管理コスト等の財政面で変化があった部分を教えてください。
⇒ ランニングコストの圧縮の他、公民館及び図書館跡地を駐車場化し収入を得た。学校、公民館、図書館にそれぞれ負担の偏りが発生しないように努めている。

- (3) 計画段階において、地域住民に対して複合化にはどのような意味や効果が見出だせると説明されていましたが、また、理解を得ることが難しかった部分等あればその内容と解決方法を教えてください。
⇒ 複合化により子どもを地域全体で育て、社会性を育むことの意味（地域の教育力）を説明した一方で、市民は子どもたちの安全が担保されるかどうかという懸念を持っていた。そのため、説明会を開催し、丁寧に市民の懸念を取り除いていった。

- (4) 計画段階から現在までの過程で、セキュリティラインの考え方やその引き方について、変化があったか教えてください。また、変化がない場合、何か変化を引き起こしそうな出来事等はあったか、それに対してどのように対応されたか、差支えのない範囲で教えてください。
⇒ 仕切りはないため開けた施設であるが、見えないセキュリティラインがある。学校が開かれているからと言って、わざわざ理由もなく学校に入る人はいない。これまでに変化を引き起こしそうな出来事はない。

(5) 複合施設の「運営」について、児童たちが関わる仕組みや余地があれば、どのようなものか教えてください。

⇒ 児童が図書委員の活動として、休み時間の25分間に図書館の受付にて児童への本の貸し出し対応を行っている。また、ジュニア委員(※)の活動として、今回のような視察時の学校内の案内を行っている。他にも給食委員の活動として「おもてなし給食」を開催し、地域の方や施設の職員を迎えて交流を行っている。これらの活動等を通じて、児童が社会に触れる機会を設け、社会性を身につけることに繋がっている。

※ 地域との連携などを目的として活動している委員会のこと

(6) 今後、志木小学校以外で学校施設の複合化を検討されているか教えてください。そうでない場合、その理由をお聞かせください。また、他の自治体に学校施設の複合化を勧めたいと思われるか教えてください。

⇒ 現状、志木市内でそのような検討をしている学校はない。当該施設は複合化する上で複合化対象施設同士が近く、立地条件がよかったことなどもあり、進めることができた。複合化が馴染むかどうかは自治体の状況によるものと思われる。志木市は住民の定着度が高く、志木小学校の卒業生も増えているため、本複合施設への理解度が高くなり、現在の円滑な運営の要因となっている。

(7) 児童の安全、防犯の観点から工夫されていることを教えてください。

⇒ 複合施設は従来の単独施設としての学校と比較して人の出入りが多くなるため、防犯を強化する必要性がある一方、施設利用者は児童を見守る“目”としての役割を担い、人の出入りの多さ自体が防犯対策となっている。

また、挨拶を交わすことの重要性を大人と児童が互いに認識し、コミュニケーションをとることができているため、健全な防犯対策となっている。

(8) 現在は、学校施設、図書館、公民館施設が複合されていますが、学校として他の公共施設と複合化することで児童の教育効果の向上が見込まれる公共施設の機能があれば教えてください。

⇒ 学校施設の複合化は当該事例以外検討していないため、回答できかねる。

(9) 学校施設の開放については、どのような手順で予約、利用をされているか教えてください。

また、学校と地域施設の利用調整（時間帯・行事等）はどのように行っていますか。学校の負担等はないか教えてください。

⇒ 市内施設はどの学校も開放しており、生涯学習課が管轄している。また、3か月に一度施設開放委員会を開催し、利用者の日程調整をしている。学校側の関係者として参加する教頭先生の負担は増加していると思われる。

(10) 施設の維持管理業務は学校所管課で行っているのか、それとも公民館等の所管課でおこなっているのか教えてください。

⇒ どちらかの所管課に寄せるものではなく、それぞれ面積按分をして対応している。

(11) 学校施設の地域開放は教職員の理解が必要かと思います。理解を得るために何か取組等を行っていただければ教えてください。

⇒ 市民検討委員会でも特に反発があった記憶はない。ごみについて、社会教育施設はごみの持ち帰りをお願いしているが、学校教育施設についてはごみ箱が置いたままになっている。そのため、学校施設を利用した団体の方がごみを捨てて帰ってしまうことが課題となっていた。また、卒業式後の体育館のパイプ椅子等の片付けは体育館貸し出しのために必要であるため、事前に周知している。

(12) 現状、学校運営、公民館運営、図書館運営においてそれぞれ課題とメリットがあれば差支えのない範囲で教えてください。

⇒ メリットは部屋の相互利用ができること。児童書の貸し出し数が3倍となったことなどが挙げられる。課題としては、複合化により施設が大きくなり専門知識がないと施設管理の対応ができかねる案件が発生している。

<参加委員の感想>

- ・ 教室前の壁のない「フリースペース」の実態がとても印象的だった。思ったよりも、児童さんに評価が高いのではないかと（休憩時間、またグループワーク時の使い勝手として、またクラス替えとなっても過去学年の友だちとのつながりも持ちやすいのでは）。一方で、もう少し落ち着いて、静かにしていきたい、という生徒にとっては…とも観察したが、中休みの時間などは、図書スペース（チャレンジコーナー）で、という選択肢が準備されている、という理解をしました。
- ・ いろは遊学館の公民館活動が、より志木小学校の児童生徒ともつながっている取組みになっている様子も高評価。特に志木小学校卒業生にとって、公民祭りなどで通った小学校の様子を見ることができるとは、学校複合化の大きなメリットなのではないか。
- ・ ご説明の中で、複合化の出発点は、市民からの要望としてではなく、志木市役所内部の職員の発意で、という点は印象的であった。
- ・ 学校施設の複合化が成立した事例として貴重であり、その経緯や運営について現場を司る方々から話を聞けたり、生徒たちの声を聞くことができたりしたのは大変意義深いものであったと思います。

特に、様々な外的要因に対してそれをはねのけて（あるいは丁寧に対応して）初志を貫徹した精神には頭が下がります。これは、企画側が「しっかりと説明することから逃れずに、とはいえ絶対に実現したい！」という強い思いがなければできないことであり、それを思い知りました。

また、こうしてできた施設について、地域がきちんと支える仕組みがあることもまた、施設の存在効果だけでなく波及効果として意味を見出だせると考えます。つまり、単に施設を作るだけでなく、その運用にまで目を向ける必要がある、ということがわかるわけです。

加えて、ここに通う生徒たちの表情や授業風景、中休みの賑わいを見れば、いかに子どもたちが柔軟に環境適応できるかを改めて感じ、かついかに大人たちが「施設や機能」にとらわれて縦割りで社会を構成しているかを思い知ります。無論、そ

こには様々な事情や考えがあるのも理解できますが、おそらく子どもたちはそれを簡単に乗り越える術を持っているのでしょう。他自治体の複合施設でも、そういった光景はよく目にします。

とはいえ現実問題を考えると、複合化には様々なハードルが立ちはだかりますし、集約化と言えど落とし穴もあります。事実、志木市においては、これだけ素敵な学社融合施設があるにもかかわらず、他の学校には展開できていません。あるいは志木小学校でも、実態は、何等かの制約が生じているかもしれない。

強い意志を持ち、かつ施設整備だけでなく地域・まちを巻き込む勇気とビジョンを有することが大切だと、今回の視察で改めて強く思いました。そして、その「主語」が誰なのか、という点についても議論していくべきでしょう。

- ・ 志木市いろは遊学館館長、いろは遊学図書館館長、志木小学校校長をはじめ、志木小学校の児童の皆様、そして、関係者の皆様へ視察の対応をいただきありがとうございました。

【感想】

- (1) 2003（平成15年）3月竣工の複合施設の竣工から22年ほどの歴史がある複合施設であり、すでに志木小学校の卒業生が親世代となっていることから地域に根付いた、地域に溶け込んである施設であるとの説明を受け、よく理解ができた。
- (2) 開かれた小学校として、その期待できる教育効果の一つを地域ぐるみの教育を掲げている。図書館利用者、遊学館利用者、図書館職員、遊学館職員施設管理事業者を始め、複合施設を利用する市民など多くの大人と接する機会があることが大きな特徴である。
- (3) 不利な点として感じられたのは、「音」や「振動」である。児童の声は良くも悪くも「元気」が特徴であり、また、「元気な子」は廊下を走る（クラスで移動すれば音や振動はある）、走れば振動が伝わる。図書館利用者の感想を聞いてみたいと思った。公民館活動の利用者にとっても利用目的によっては気になることもあるのではないだろうか。

児童たちの側からも、「学校生活では発生しない音や振動」が遊学館の利用なのであれば、小金井市で検討する際は、事前にあらゆる角度からのシミュレーションを行ったうえで、互いに許容範囲があることなどは確認しておかなくてはならない。

(4) 教育的な観点から「開かれた学校」を具現化するために、教室の壁を作らず普通教室のオープン化を実行して、フリースペース利活用を図っている。学校の教諭の当時の反応を少しだけお聞きできたが、この教育方針を小金井市の教育現場に導入できるかについては、小金井市教育委員会の丁寧な検討や地域の理解、教諭の理解が得られるかなどの課題があると思う。

開かれた学校や地域共生を意識する小・中・高の一貫校などがあることは、私なりに承知しているところである。過日も広島県の広島叡智学園がメディアで紹介されている。こうした報道を見るたびに、児童生徒、保護者、地域、教育関係者の理解と協力が欠かせないことがうかがえる。

また、開かれた学校の課題は、「学校の安全性」にも大きくかかわる問題である。安全性については、池田小学校の事件や過日の立川市での保護者による傷害事件などが記憶に残っている。

志木市での教育長や校長先生の頑張りがあってのことですが、小金井市でもチャンスがあれば研究・検討をお願いしたいと思う。

(5) 志木市の場合は、三つの施設の老朽化と各施設が物理的に近いところにあったことから、費用対効果、各施設の特長を生かした複合施設が建設できたという側面があると思う。小金井市では、施設の老朽化と費用対効果とそれぞれの施設（地域ごとの資源）の組み合わせで複合施設のメリットを出すということになるので、組み合わせられる複合施設から提供されるサービスと地域の社会的なニーズがマッチするのかという課題もあるのではないかと考えられます。

必ずしも各地域で同一の複合化を行うことは出来ない、ということです。

(6) 小金井市に置いては、学校施設の長寿命化計画や施設のマネジメント計画に沿って、費用対効果をしっかり示すことや、地域のニーズにこたえられる地域をとくしていしながら、「まずは一つの地域」で実現できるように取り組んでいくことが肝要だと思います。

・ よく考えられた施設であると感じました。

子ども達も見学慣れしているところもあろうかと思いますが、明るく生き生きしていたように思います。

ゼロから新築することは難しいと思われませんが、緑小学校と緑センターのように隣接している公共施設と学校を結合して床面積を増やして、緑小地域の公共施設を

統合する事をトライしてみても良いのではと思いました。

志木小学校モデルが広がっていない課題を洗い出して解決方法を模索する事が今後の公共施設の在り方をスムーズに進めるためにやるべきことではないかと強く感じています。

- ・ 志木小学校、いろは遊学館、いろは遊学図書館は、ただ建物内で隣接しているだけでなく、相乗効果を得られるように連携を取っているという点が印象に残った。例えば、公民館部分が休館にあたる日は、学校の授業で自由にホールなどの公民館施設が使い、逆に小学校の教室の一部は、放課後や休日に市民に提供されている。

小学校・公民館・図書館にはそれぞれの館長（校長）を配置し、それぞれの所管業務を管理しつつ、3者でよく話し合いを行っているようだった。3者が対等な関係でそれぞれの良さを活かしながら協力できているのは、全ての施設が直営だから、という点も大きいのではないかと感じた。「業務委託を検討されたことがなかったのか、また直営で良かったと感じる点は何か」と質問したところ、特に学校との連携、先生方との関わりを考えると直営以外あり得ないと思ったと回答があった。

小金井市の公民館・図書館の中には、いわゆる直営館とNPO法人が受託運営している館の両方が存在する。もし当市が志木小学校のような複合施設化を目指すのであれば、管理形態の違いが連携の障壁にならないよう、現場のスタッフ同士が対等にコミュニケーションを取れるようにする工夫が必要だと感じた。

【オープンスクールについて】

志木小学校は、教室の廊下側の壁がないオープンスクールであることも大きな特徴であった。学校部分は賑わいにあふれ、同校の生徒たちは他の学校の生徒よりも、明るく朗らかに育っているように思えた。学校の施設環境は子供たちの人格形成に大きな影響を与え得る。公共施設づくりには、地域の子供たちにどのような場で過ごしてほしいかという視点も重要であると実感した。

- ・ 今から26年前の平成9年に建設向けの議論が開始され、平成15年にハード面ソフト面ともに先進的な考えが取り入れられた合築施設が開設されました。子供視点、地域視点、保護者視点において日々運用面の努力を重ねることにより、今なお視察が絶えない注目されている施設であることに感服をいたしました。また、単なる教育施設、公民館・図書館という枠にとどまらず、地域と連携しながら子ども

達の成長を支える拠点としての機能を果たしている様子に、深い感銘を受けました。

小学校では、教室と廊下の間に壁がないことにより心の障壁もなくし、学年として一体感を出していると感じました。また、チャイムがないことにより、チャイムに頼らず、自分で時間管理する力（タイムマネジメント力）を養っていると感じました。これにより児童は、「今は何をやる時間か」を自分で考えるようになると思います。

小学校・公民館・図書館の設計・配置については、子どもたちの安全と学びの自由度を両立させた工夫が随所に見られました。自然光を多く取り入れた明るい教室や体育館、(壁をなくすことによる) 広々としたまた子供達の元気な声が響く共有スペースの構築、そして子どもの目線に立ちかつ安全面にも配慮した3施設のレイアウトなど、公共建築としての質の高さを感じました。開放感と安全性を両立させた空間設計は、教育環境として非常に優れていると感じると共に、志木小学校に通えることが一種のステイタスになるほど、地域に誇れる公共建築物の一つであると思いました。

一方で、今回の視察を通じて感じたのは、「地域との協働」という視点において、更なる発展の余地があるのではないかという点です。志木小学校を中心としたいろは遊学館、いろは図書館が一体となり地域社会とより深く結びつくことで、(小学校としての) 教育機能・(公民館・図書館としての) 社会教育機能にとどまらず、防災拠点・福祉連携・世代間交流の場としての可能性も広がります。特に、少子高齢化や地域コミュニティの再構築が課題となっている現代において、志木小学校・いろは遊学館・いろは図書館が更なる「地域の中核拠点」として機能することは非常に意義深いものとなると考えます。例えば、放課後や週末における地域住民との協働イベント（防災、福祉、世代間交流など）の開催や、地域ボランティアの積極的な受け入れなど、学校を拠点にした双方向の交流を促進する取り組みは、今後の検討に値する分野ではないかと思いました。学校の役割を「子どもの学びの場」から「地域の資産」へと広げていくことが、これからの公共施設に求められる方向性ではないでしょうか。当然、日々業務を抱えた教職員、公民館・図書館職員にとってそれを課すのは酷な面もあると感じつつも、平成9年検討が開始した時のように強い考えも持つものが集まれば、更なる発展の余地もあると感じました。

今回の視察を通し、「ハード」としての建物の整備だけでなく、「ソフト」としての運営や地域との関係性こそが公共施設の価値を高めていくことになることを再

認識させられました。

最後になりますが、ご多忙の中ご対応いただいた志木小学校・いろは遊学館・いろは図書館の皆様（小学生の説明良かったです！）に深く感謝申し上げますとともに、今回の視察で得た学びを、小金井市の公共施設の在り方の検討にしっかりと活かしていきたいと考えています。

・ **【志木小学校】**

すでに高く評価されている「開放性」が、設計また運営におけるしっかりした理念に基づいて実現し継続していることを確認した。視察が多いこともあろうが、子どもたち、教職員のみなさんの、志木小学校のありかたを理解し誇りをもって語るありかたに感銘を受けた。

開放性については、公共の場として多様な人々が来る・見えるという施設（ハード）の開放性と、そうした人々との交流が教育のなかに織り込まれるという運営（ソフト）の開放性の両方があることから、地域への開放性が安全性も支えるという状況があると思われる。

特性・個性から、あるいは時には開放性になじまない心理にある多様な子どもたちの状況があり、そうした特性への配慮を感じることもできた。「静かに一人になれる場所」も、だれにとっても必要であろう。

複合化の好例を見た。志木小学校を好例にしている「しっかりした理念」の背景には、反対や懸念にたいする応答によって（反論していくことで）、理念そのものも支えられ、浸透が進んだと想像される。もしこの例に倣うのであれば、美しいだけでなく、反論に応答していく前提で（疑義があり、それを越えていくことを前提にして）、複合化の方向性を理念化することが必要と考える。

【いろは遊学館】【いろは遊学図書館】

個人利用ができる音楽室など、充実した施設、運営がなされていることが理解できた。

いろは遊学図書館は、学校図書館としての機能も持つことで、「本を読む」場所が多様な利用者と共有される優れたスペースになっていると感じる。他方、近年、学校図書館では「話をしながら読書・調べ物・グループワークができる」コモンズエリアの設置も少なくないが、いろは遊学図書館のスペースそのものに現在からこれらを設置することは難しいかと感じた。

遊学館・遊学図書館は、愛されている施設と感じるが、それだけにユーザーズグループがどのように存在し、活動しているかが気になった。主体的な活動を展開し、それが両施設に良い効果を与えるような活動が可能と思われる。例えば、遊学館の音楽室利用者のつながりや、類似の興味や関心を持つ利用者のつながりなど。公共施設と公共図書館の連携でとらえれば、さらに可能性があるのではないか。先駆例としては、小美玉市の「四季文化館 みの〜れ」、伊万里市の「図書館フレンズいまり」があげられる。また、これらの好例はいずれも施設の設置構想時からのかかわりがあり、施設の設置・運営の理念に理解と愛着を持って活動している。施設の複合化を構想するときに、こうしたグループの形成をめざした市民の参画を募り、理念・構想を共につくっていくことが、「疑念や不安へも反論することができる強い理念」、「理念を実体化していく運営」のために必要ではないだろうか。

- ・ この度は公共施設在り方検討委員会の一員として貴重な視察の機会を頂き、個人としても多くの学びを得る機会となりました。

志木小学校の校舎は築年数が経過しているものの、地域住民との共有スペースが特化しており効率的な運用が図られている点が印象的でした。また、改修と今後の展望についても計画的に運営されており、学校施設としてではなく地域のコミュニティ拠点としての機能の仕組みが高い点も参考になりました。

小金井市でも公共施設の老朽化と財政負担の増大が懸念されており、財政的な制約が志木小学校とは異なりますが、既存施設の有効活用を模索していく点で持続可能な公共施設の在り方に重要な知見を得られたのではないかと思います。

施設の様子等



入口



開放的な教室は、フリースペースとの間仕切りなし



施設案内板



学校の職員室



いろは遊学館と学校を結ぶ
レインボーブリッジ



小学校から図書館へ



図書館の受付カウンター(児童への図書の貸し出しは図書委員の児童が図書館の職員と並んで行う)



防災倉庫



図書館(児童も使用)



いろは遊学館 研修室

夏の運動会では研修室を開放して保護者等の見物スペースとして活用



不審者対応の掲示物